

倫理規範

公正・健全な企業活動

私たちは、公正・自由な競争を行うとともに、お取引先や株主・投資家、行政・政治に対して透明で健全な関係を築きます。

キューピーグループのアプローチ

キューピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」の考えのもと、調達先や販売先といったサプライチェーンに関わる皆様とともに社会的責任を果たしてきました。「良い原料」に求められる条件は時代とともに変化します。私たちは、原料の品質はもとより、サプライチェーンにおける環境や人権に配慮した調達の取り組みを強化し、お取引先の皆様とともに持続可能な社会の実現をめざしていきます。

サプライチェーンへの取り組み

サプライチェーンマネジメントの考え方

キューピーグループにとって、原料や資材を提供いただく調達先の皆様や、商品を販売いただく販売先の皆様は大切なパートナーです。お取引先と適切なコミュニケーションを図ることで信頼関係を築き、相互理解のもと一層の改善活動に取り組むことで、ともに成長できる関係をめざしています。

倫理規範を実践することで、汚職防止や公正な競争などの課題に対応し、ステークホルダーとの健全な関係構築に努めています。

持続可能な調達のための基本方針

キューピーグループは、「良い商品は良い原料からしか生まれない」という原料に対する強いこだわりをもち、お客様に安全で安心していただける商品づくりに努めてきました。しかし、今や原料は品質や安全性だけでなく、サプライチェーン全体で環境や人権に与える影響にも配慮することが良い原料の条件であり、お客様の安心の要素となってきています。こうしたより良い原料を安定的に調達するためには、お取引先と一緒に取り組んでいく必要があります。そして、このことがお取引先と私たちの持続可能性を高め、お客様に良い商品をお届けし続けることにつながると考えます。

この考えのもと、2018年1月に「キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針」を策定しました。

キューピーグループの持続可能な調達のための基本方針

- 1 法令を遵守し、国際的なルール・慣行にも配慮した取引を行うとともに、腐敗行為の防止を徹底する。
- 2 公正で誠実な取引を行うとともに、機密情報や知的財産を適切に管理する。
- 3 人権を擁護し、差別的な言動や非人道的な扱いを行わず、また人権侵害に加担しない。
- 4 従業員の労働者としての権利を尊重し、適切な労働慣行と安全で衛生的な職場環境を確保する。
- 5 地域と地球環境の汚染と破壊を防止するため、資源の持続可能な利用に努める。
- 6 安全で高品質な原料を持続的に利用できるように、生態系への影響も考慮した管理を行う。
- 7 原料を生産する地域社会が持続可能になるよう、積極的に貢献する。
- 8 上記に関して、自社のお取引先にも同様の配慮をお願いする。
- 9 上記に関して、適時・適切な情報開示を行う。

 キューピーホームページ
「持続可能な調達について」

原料・資材メーカーとの協働

キューピーグループでは、調達先である原料・資材メーカーへ専門の担当者が定期訪問し、ものづくりの基本的な考え方を共有しながら、さまざまな課題の解決に向けた取り組みを進めています。

段ボール・紙器メーカーとの協働

キューピーでは、環境保全や人権配慮の視点から段ボール・紙器メーカーとの協働で、適切に管理された森林木材を使用したFSC認証材の導入を進めています。現在、段ボール原紙の約60%はFSC認証紙を使用しており、今後はカートンなどへのFSC認証表示導入を検討していきます。

鶏卵生産者との協働

キューピータマゴでは、各地の養鶏会社訪問を通じて生産者の生の声を聴くと同時に、私たちの商品をご使用いただいているユーザーの声を伝え、相互の成長・発展につながる協働体制の構築に努めています。これにより、鶏卵の食卓への登場場面を増やし、需要拡大・業界の発展を担っていききたいと考えています。

生産農家との協働

良質な野菜原料を安定して調達するためには、地域農業の振興が重要になります。一方で、天候不順、後継者不足、耕作放棄地の拡大など、社会的な問題が顕在化しています。キューピーグループは、全国の生産農家との協働によって、これらの問題の解決に貢献していきます。

●農業を基盤とした地域振興

キューピーは、2017年より茨城県つくば市にある有限会社ワールドファームと提携し、全国の耕作放棄地を畑に再生する取り組みを進めています。現在、茨城県つくば市、石川県能登町、秋田県横手市などの契約産地から新鮮なキャベツが、グループ会社の製造するカット野菜などの原料の一部として供給されています。産地開発による安定的な原料調達だけでなく、農業の担い手となる若者が集まり地域が一体となった農業振興への貢献につなげていきたいと考えています。



耕作放棄地を再生し農業の担い手となる若者たち
(茨城県つくば市)

●サラダクラブによる産地表彰式

サラダクラブで取り扱う野菜は、生産者との顔が見える関係を基本に、全国約400の契約産地との「契約取引」で調達しています。「契約取引」は、一定価格で安定した原料調達が行えるだけでなく、生産者にとっては、安定的な収入を基盤に戦略的投資が行えるというメリットがあります。

2017年4月には、生産者の皆様に感謝の想いを伝えることを目的に、「産地表彰式」を初めて開催しました。今後も、産地との密なコミュニケーションを生かした独自の商品開発など、魅力ある商品づくりに努めます。



産地表彰式「Growth of Salad club 2017」の様子

●アヲハタによる果実生産者との取り組み

アヲハタグループの原料産地は、時代とともに世界各地に広がっています。安全でおいしい原料を調達するため、国内外の原料産地に技術者が出向き、育苗・栽培から一次加工までの勉強会や技術交流を行っています。2011年には、高品質な原料の安定確保に向けて「ウイルスフリー苺」の開発・供給を開始し、農家の反収増加と産地安定化に寄与しています。